

議会だより

No148

平成28年
7月31日発行

群馬県邑楽町議会 URL <http://www.town.ora.gunma.jp/chosei/gikai> E-mail gikai@swan.town.ora.gunma.jp



プールを楽しむ北保育園の園児

平成28年 5月臨時会・6月定例会

- 可決された議案……………2
- 一般質問……………2~10
- わたしのふるさと等……11~12

一般質問 8人の議員が町の考えを問う

- ・大賀孝訓 議員
- ・松村 潤 議員
- ・瀬山 登 議員
- ・原 義裕 議員
- ・松島茂喜 議員
- ・大野貞夫 議員
- ・小島幸典 議員
- ・黒田重利 議員

動画による録画映像配信中
ホームページからアクセスできますので
ご覧ください

可決された議案

5月臨時会

【特別委員会の設置】

学校給食について調査・研究するため、学校給食問題調査特別委員会を設置しました。

【専決処分の承認】

行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の改正

邑楽町税条例等の改正

邑楽町都市計画税条例の改正

正

邑楽町国民健康保険税条例の改正

地方税法等の一部を改正する等の法律が、4月1日から施行されたことに伴い、専決処分された条例の改正について、承認しました。

6月定例会

【報告】

西邑楽土地開発公社経営状況の報告

平成27年度決算が報告されました。

【人事案件】

監査委員の選任

監査委員に、増尾榮一さん（篠塚）を再任することに同意しました。

【条例改正等】

邑楽町営住宅設置条例の一部を改正する条例

大黒第1町営住宅の用途を廃止することに伴い、条例を改正しました。

邑楽町工場誘致対策委員会設置条例を廃止する条例

邑楽町商工業振興対策審議会条例や邑楽町企業誘致条例等が制定され、これらに基づいて施策が進められていることから条例を廃止しました。

町道の路線認定及び廃止

鶉土地区画整理事業に伴う町道路線の認定及び廃止をしました。

平成28年度補正予算額

会計別	一般会計
予算現額	87億4,300万円
補正額	△1億5,862万円
予算総額	85億8,438万円

請願・陳情

1件の請願が受理され、審査の結果次のとおりになりました。

【継続審査となった請願】

▼保育士等の処遇改善と職員配置基準の引き上げの緊急対応と財源確保を求める請願書

請願者

高崎市倉賀野町

群馬県保育問題連絡会

会長 平石美奈

町政を問う

一般質問

一般質問は、6月14日及び15日に行われました。質問には、8人の議員が登壇し、町の行政事務などについて執行部の考えをただし、活発な議論が行われました。

◆ 大賀 孝訓 議員

地域防災計画について

3ページ

◆ 松島 茂喜 議員

第六次総合計画について

7ページ

◆ 松村 潤 議員

学校給食について

4ページ

◆ 大野 貞夫 議員

公の施設に係る使用料について

8ページ

◆ 瀬山 登 議員

邑楽町広域公共路線バスについて

5ページ

◆ 小島 幸典 議員

都市計画道路（邑楽中央線）整備及補修の件

9ページ

◆ 原 義裕 議員

人口増で町の活性化を図る

6ページ

◆ 黒田 重利 議員

町PR活動について

10ページ

一般質問



大賀 孝訓
議員

地域防災計画について

問 熊本地震の被災者の皆さまに改めてお見舞いの情報によると、日本全体がプリンに乗ったような不安定な状態が続いているとのこと。このような中で大規模災害が起こったとき、司令塔になるのが役場庁舎である。どのような大災害があるうとも役場業務は継続しなければならぬ。本町の業務継続計画（BCP）はどんな計画が策定されているのか。

答 **安全安心課長** 町全体のBCPは策定されていない。

問 本町ではいつごろをめどに業務継続計画を策定していくのか。

答 **安全安心課長** 今年度中に着手し、平成29年度には策定したい。

問 今後、首都圏が襲われるであろう震災、津波の確率が高まっていくと思う。電源供給が止まれば、県全体も停電に陥る。水の確保はどのようになるのか。

答 **安全安心課長** 各浄水場に配備されている非常用発電等の稼働がある。

問 停電が発生した場合、水は出るのか出ないのか。

答 **安全安心課長** 大規模停電では、断水が各地区で発生すると思われる。

問 町には給水タンクは1つあるが、給水車はない。非常時の対応を聞かせ

てほしい。

答 **安全安心課長** 水の供給となるとタンク型のもので1つあったが、群馬東部水道企業団の管理となっており、町としては持っていない。

問 町長は、この問題についてどう考えているのか。

答 町長は、この問題についてどう考えているのか。

町独自の給水車の必要性

答 町長 緊急時に給水車が必要ということは、十分認識している。町独自の給水車の必要性ということについて、早期に考えていく。

問 本町においては、近隣の市町と救助体制の協

定を結んでいるが、被害が出ないような遠距離の市町村と協定を結ぶ必要性がある。どのような形になっているのか。

答 町長 具体的には進んでいない。より具体的に進めるように努力をした

問 町の防災計画は平成27年3月より更新されていない。中身の見直し、ホームページの更新はいつされるのか。

答 **安全安心課長** 洪水等最新のデータが送られ次第、修正作業をしていきたい。

問 首都圏での大災害時、町では電源が確保できる避難場所は何力所あるのか。

答 **安全安心課長** 非常用電源はない。本庁舎のみ3日分の電源がある。



防災拠点となる役場庁舎

問 関連事項で、インフラ公共施設の点検修理計画はどのようになっているのか。

答 **副町長** インフラの長寿命化計画等は、今年度中の完成に向けて準備を進めている。

その他の一般質問
・道徳教育の充実について



松村 潤
議員

学校給食について

問 食物アレルギーにより、学校給食を食べられない児童・生徒が、全国的に増加傾向にある。群馬県内においても県教育委員会による学校保健調査で、平成27年度に食物アレルギーがあると申告した人は、1万863人で3年連続増加していることがわかった。そこで、本町における過去3年間の食物アレルギーを持った児童・生徒の状況について聞きたい。

答 **学校教育課長** 食物アレルギーがあると申告した小・中学校の児童・生徒数は平成25年度が113人、平成26年度が103人、平成27年度が93人である。

問 学校給食は、必要な栄養をとる手段であるば

かりでなく、児童・生徒が「食の大切さ」「食事の楽しさ」を理解するための教材としての役割も担っている。このことは食物アレルギーのある児童・生徒にとっても変わりはない。食物アレルギーのある児童・生徒が他の児童・生徒と同じように学校給食を楽しむことができるよう目指すことが重要だ。給食センター内にはアレルギー食調理室が整備されている。にもかかわらず全く対応されていない。なぜなのか。

答 **教育長** 給食センターでは、当時の建設検討委員会での慎重審議のうえ、必要であるということである。その後、アレルギーの危険度が増し指導が強化さ

れた。今は、アレルギー食調理室は果物の加工処理に使っている。このままでいいということではなく、食物アレルギーがある児童・生徒の保護者と意見交換を行い、生の声を聞かせていただき、よりよいアレルギー食対応ができることがあるのか。また、アレルギー食調理室の有効活用を保護者がどのように望んでいるのか意見を吸い上げ、間違いないよう対応していく。

問 重篤のお子さんの保護者から見れば、生命に関わることなので、早く結論を出していただきたい。
答 **教育長** 7月に会議を開き、1学期中には方向性をまとめ、慎重に考えていきたい。

問 アレルギー食調理室を別の用途に有効活用する考えはあるか。
答 **教育長** アレルギー食を作る部屋として使わない方向になったら、有効に活用していきたい。

問 町長はどのように考えているのか。

慎重に進めていく

答 **町長** 大変な問題でもあるので、教育長が回答したことを総合的に考え、慎重に対応し進めていく。
その他の一般質問
・雑誌スポンサー制度について
・広告事業の推進による財源の確保について



目的どおり使用されていないアレルギー食調理室

一般質問



邑楽～太田線（北部路線）



瀬山 登
議員

邑楽町広域公共路線
バスについて

問 行政事業実績報告書の過去3年間の平均では、現在運行している町内2路線のバス、邑楽～太田線は、一日平均乗車数40・3人、一運行あたり3・8人、年間町負担金871万425

9円、一回乗車あたり約520円の補助である。館林・邑楽・千代田線では、一日平均乗車数35・2人、一運行あたり3・8人、年間町負担金820万1972円（1市2町の分担金、邑楽町41%、229万6660円）、一回乗車あたり約545円の補助である。町の福祉タクシー補助金400円補助との比較では、適当でないと思うが。

答 企画課長 両路線とも一人500円を超える経費がかかり、一概にどちらが有利、不利とはいえないが議員の指摘もそのとおりかと思う。

問 なぜ利用率が低く負担額が増えるのか。利用者に向きない停留所や南部

路線と北部路線が合流されずアクセスがよくない。利便性に欠けているのではないかと。また、路線バスに乗って行ける観光地などのPRが不足しているのでは。

答 企画課長 過去、ダイヤ改正に伴う停留所の変更等行い、一定の効果は出ている。今後とも関係部局と調整を図り、利便性向上に向け研究、検討していく。

問 平成28年度予算では、北部路線のバス買い替え補助金500万円とあるが、当初のバスは短命過ぎる。整備運行管理で経費の節減が図れないか。

答 企画課長 過去に自損事故等があり運行業者の瑕疵にあたる。今後、随

時チェックし極力抑えていく。

問 広域公共バスの運行経費が上昇している。よき利便性のよい路線や停留所の提供により、安心、安全、交通弱者に便利な町づくりになると思うが。

答 町長 交通弱者の救済策として、路線変更等を含め、利便性の向上や経費節減に一層努力する。そして、広域公共バスが有効に活用されるよう努力する。

有効に活用されるよう努力する



館林・邑楽・千代田線（南部路線）



原 義裕
議員

人口増で町の活性化を図る

問 昨年の6月に総合開発計画審議委員の委嘱がなされ、いまだに第六次総合計画の諮問に対する答申がされていない。速やかに答申をいただくことが、町政に混乱を起こさないと思うが。

答 町長 一日も早く、答申をいただけるよう努力する。

問 3月議会において「計画と執行は別物ではない」という答弁があった。町執行運営を混乱させず、速やかに答申がされるものと信じ、平成28年度一般会計予算を、議会は苦渋の選択により賛成多数で可決した。しかし、新年度になり2カ月が過ぎていく。審議会関連の補正予算も可決さ

れ、いつまでに第六次総合計画が答申されるのか。

答 町長 補正予算が可決されたので、一日も早い段階で審議会を開いていただくようお願いしていく。

問 具体的には、6月か7月中、一日も早く審議会の開催を願う答申をいただき、臨時会で承認を得られるよう考えていただきたい。

答 町長 早急に開催を願っていく。

問 人口の減少が続き、削減可能な町といわれている。邑楽町全体では農地は約半分ある。人口を増やし経済的にも豊かにしていくには、製造業の施設や官公庁の出先機関、大型商業

施設等の誘致が必要ではないか。

答 町長 大変前から農業振興を中心とした町で、土地利用については多くの制約がある。また、県都市計画や町の都市計画マスタープラン等との整合性も図っていかねばならないが、努力していく。

問 町長は、工場を誘致し経済発展させていくことを公約に挙げている。候補地を5カ所挙げているが進捗状況は。

答 町長 2カ所に絞り県と協議中である。若干時間がかかってしまうが努力する。

問 広い土地があり、国道が2本通っている立地

条件の良いところで、いつになるか判らないという回答は認められない。打開することが重要で、町長の政治力とトップセールスが必要だ。

答 町長 一定のルールの中で、土地利用の制約を解除するには、大変高いハードルがある。

問 災害が少なく、首都圏からも100キロメートル足らず。平地で造成しやすく自然環境が整っている。邑楽町を全国発信することが必要。そして、広い

工業団地ではなく首都圏の官公庁等の出先機関を誘致すれば、現在町が持っている土地でも利用できるが。

答 町長 それらについて十分検討を加えていく。

問 町長のトップセールスで可能な面積と思うが、

後れを取らぬよう
頑張る

答 町長 他市町と比較しても行政サービスは劣っていない。後れを取らぬよう頑張っていく。



一般質問



松島 茂喜
議員

第六次総合計画について

問 先日の全員協議会の中でも総合開発計画審議会会長である議長から、審議会を開くポールは町長にあると説明があったが、どのような認識か。

答 町長 4回ほど審議会が開かれたが、残念なことに答申まで至っていない。ポールの受け止め方についても会長のほうに尋ねて前へ進むようにしたい。

問 自分のところにポールはないような話だが、ではなぜ審議会が開かれないのか。

答 町長 基本構想の思いをきちんとお願いしている。

問 私も審議会の委員として、その中でもまちづくりの大黒柱となる町独自の政策は何かと尋ねてきたが、具体的な答弁はいただいている。だから、私は、ポールは町長が持っているという認識だが、違うのか。

答 町長 既に審議会の中で、審議していただきたい。オリジナリティのある政策を打たなければだめだという認識は、私と同じか。

問 邑楽町でしかできない、オリジナリティのある政策を打たなければだめという認識は、私と同じか。

答 町長 町には町に合った特色あるまちづくりがある。そう考えれば、その点は同じだと思う。

問 人口減少に対応するために、5本の小柱を立てたということだが、その

中にひとつでも、邑楽町でしか行えない事業、オリジナリティのある事業があるのか。

地域包括 ケアシステムの構築

答 町長 具体的に申し上げれば、健康の問題である。これはもう進めているが、地域包括ケアシステムの構築である。

問 私は、独自性のある事業は何かと聞いている。それは、どこでもやっているのか。何を言っているのか。さっぱりわからない。民間の企業や商店では、生き残るために、オリジナリティのある商品を開発する努力をしている。やらないのは、自治体だけである。邑楽町

は、災害がなく、館林ICと太田桐生ICの真ん中である。町の中心には、鉄道も通っている。非常に利便性の高い、有効的な土地利用が可能な場所である。それが、最大限生かされていないのが現状である。その地の利を生かしたまちづくりをするために、政策を考えるのが町長の仕事である。しかし、その大黒柱がいつになっても立たないから、審議会が開かれないのである。政策能力がないのか。もう一度聞くが、先駆

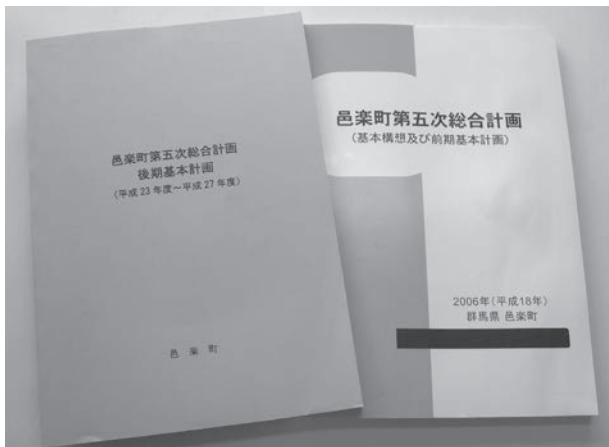
的であって、独自性のある邑楽町でしかなし得ない事業をひとつでいいから言っていたきたい。

答 町長 人口減少、少子化対策をいかに進めていくかということに尽きるわけでもある。邑楽町におけるその対策、考え方というのは、

きちんと持たなければならぬ。

その他の一般質問

- ・申請に対する処分に係る審査基準について
- ・学校給食について



策定されていない町のビジョン



大野 貞夫
議員

公の施設に係る 使用料について

問 中央公民館並びに既存の社会教育施設使用の有料化が、論議を呼んでいる。公民館は、社会教育、生涯学習の拠点と位置付けられている。生涯学習とはどのような概念だと認識しているのか。

答 町長 一つは生活の向上、自己の充実を目指す、各人が自発的な意志に基づいて行うことを基本にする。二つ目は、必要に応じ可能な限り自己に適した方法を選びながら生涯を通して行うもの。三つ目は、学校や社会の中で、意図的、組織的な学習活動としてだけでなく、スポーツ、文化、趣味、レクリエーション、ボランティア等、いつでも、誰でも、どこでも、何でも人々が、

自発的に行う全てで、広い意味では、学校教育や社会教育も含まれる。

問 今、説明された内容からして、われわれの学習権を保証する施設としてとらえるべきと思うが。

答 町長 ご指摘のように思う。

問 社会教育施設の使用状況は。

答 生涯学習課長 平成27年度の実績では、7982団体、11万9745人。この3年間で2割ほど増えている。

問 これだけ多くの人に利用されていることは、住民の生きがい、健康づくりに大きく貢献している

と思う。この観点からすると、有料化は問題があるのではないか。

答 町長 一つ目は、施設を利用する人、利用しない人もいるので均衡を図ること。二つ目は、体育施設は使用料を徴収している。それらの均衡を図ること。三つ目が、照明、エアコン等の電気を使用することから一定の実費負担もやむを得ない。

問 社会教育法の中でいわれている公民館活動の位置づけからすれば、受益者負担の考え方は、学習権を権利として捉えたとき無理ではないか。むしろ利用していない人たちをどうやって生涯学習活動に参加してもらおうかといった取り組みこそ必要ではないか。

答 町長 考え方としては、使用料ではなく、電気料の実費を負担いただくということなので、理解してもらえるとと思う。

問 これまで3公民館は、40年以上無償で学習の場を提供してきた。中央公民館がきっかけで、有料化になるといのは、これまでの政策と整合性が図れないのではないか。

答 町長 中央公民館は、多額の費用を投じての建設であり、同時に今の経済情勢等の状況を踏まえるとやむを得ない。

問 教育長 今、企画課が中心となり全体の見直しを行っている。何らかの合理性のある納得のいくものであれば、減免措置を取ることがある。

答 町長 減免措置を取ることはある。

問 今まであった減免制度はなくなるのか。

減免措置を取ることはある



使用料改定を検討している社会教育施設

一般質問



小島 幸典
議員

都市計画道路（邑楽中央線） 整備及補修の件

問 国道122号中野向地
信号より南、数百メー
トルは歩道があるが、中野
小学校東側と旧役場入口の
信号機までは未整備である。
信号機から北側の歩道が狭
く、学童等歩行者の安全の
ために歩道の整備を。

児童高齢者に配慮した 道路行政を推進

答 町長 主要地方道であ
り、県が管理している。
平成元年に都市計画道路と
して決定され、平成30年度
から平成34年度の整備計画
に盛り込まれている。県と
協議して一日も早く児童や
高齢者に配慮した道路行政
を推進するよう努力する。

問 現在は、平成28年であ
る。平成30年から平成

35年とすると、7年間、現
在の状態では、小学校や邑
楽町公民館があり、交通量
も多く、事故があつてから
では遅い。町長が安全のた
め整備するとなれば素早く
できる。

答 町長 今、県と協議し
ている。平成30年度前
にできるか否か約束はでき
ないが、県に要望する。町
道ならば議員と話し合える
が、県道であり土木事務所
を通してお願いしている。

問 道路を広げるのでなく、
柵を外すだけ。柵を外
せば広くなり、十分歩道の
役目をし、人命を考えた場
合、町民や学童のため、町
でできると思うが。

答 町長 議員の考え方も
一つである。部分的改

良でも、計画的一体的に進
めなければ、他の部分でい
ろいろの弊害が出てくる。
一体的な計画を進めていく
ことが将来的には望ましい。

問 本中野駅の西側踏切か
ら南の道路にはかなり
凸凹がある。大型トラック
が通ると、昼夜一日中振動
が生じて周辺住民が休めな
い。また、お年寄りが手押
し車で横断するとき、非常
に大変である。早急に道路
の整備を。

答 町長 議員が指摘する
ようなことがあれば、
早急に整備すべきである。

問 町長は早急に整備すべ
きと言ったが、県に申
請するののか。署名運動か何
かその辺の手続は。

答 町長 県道であり、県
の事業で整備していた
だ。その整備の促進につ
いては、地元の皆さんの要
望も一つの方法である。

問 地元の要望となれば、
手続等は町で行ってく
れるのか。

答 町長 都市建設課でも
指導するが、そ
のような状況につい
ての具体的な内容を
記載して、管轄して
いる館林土木事務所
に相談していただい
ればと思う。

問 毎日の生活での
苦痛解決の手助
けをするのが行政。
町長、町の道路関係
者、土木委員などい
るが、書類等の指導
について町の協力は、

答 町長 協力はす
る。

問 土木事務所に請
願等を出すと



旧役場付近の歩道

き、町長名も記入してくれ
るのか。

答 町長 当然、町民の間
題に関わることなので、
内容によってはそのような
考え方は必要だと思ふ。

その他の一般質問
・ 町行政の町民への経済支
援策は



黒田 重利
議員

町PR活動について

問 イベントなどのPR活動をどう展開しているのか。

答 町村会事業として、邑楽郡楽郡地域ふれあい物産展を開催し、邑楽町の物産展を内外の人にPRした。1月には東京のぐんまちゃん家にて、邑楽郡5町の「鶴舞うGUNMAくちばし展」に参加し、邑楽町産のお米や白菜の漬物、塩海苔餅などを販売、白菜の無料配付も行った。

問 そうしたPR活動で目的が十分達成されているのか。

答 句には、県の観光物産国際協会主催のツアー客20人がガバ沼に白鳥見学に来た。また、東京都の町内会ツアーとして、40人を超える方々がシンボルトワーを訪れ、あいあいセンターで買い物を楽しんでいただいた。こうした取り組みを積み重ね、誘客促進に結び付けたい。

問 民間との連携はどのような状態か。

答 町商工会、観光業者、農家と連携して、商品の開発等も行っている。

問 物産展の検討は。

答 農業振興課長 春の産業祭（仮称）について、町の農工商を盛り上げる意味においても、協力団体から意見を聞き、内容を決めていく。

問 町のイベント情報の発信方法は。

答 町商振興課長 広報おおうらお知らせメール、また、民間の雑誌「じゃらん」「ぴあ」「おでかけ群馬」さらに県の観光情報紙「ダ

グッとぐんま」などが無料で町の観光情報を掲載している。

問 邑楽町に人が流れ込むような町の活性化、人口減少対策につながる案はあるのか。

答 農業振興課長 農工商連携事業を企画中である。町商振興課を中心に旗揚げした「そばの町おうら」の推進と、地産地消協議会の連携を強化し、町の観光資源となる新商品や特産品の開発、研究、そして、新たな雇用創出を進めたい。

町商振興課長 来町者には見ること、食べること、買うこと、体験することに満足していただき、観光客の再来訪を促し、町の活性化につなげたい。農工商連携による町の賑わいの創出により、来町者に移住、定住のきっかけをつかんでもらい、本町への転入者の増加を考えている。

問 町のPRに必要なイベントについて、おうら祭り以外のイベントがあるのか。

光のページェント
来場者1600人超え

答 町長 産業祭、白鳥まつり、タワー・オブ・クリスマスやイルミネーションイベントとして、光のページェントHiKARi MIRAiなどがある。特にタワー・オブ・クリスマスは平成24年から開催し、昨年度はイルミネーションイベントを拡大した。その結果、期間中タワーへの入場者が、1600人を超えた。



タワー・オブ・クリスマス



光のページェント HiKARi MIRAI



休憩室 The Lounge

ありがとうと感謝



矢島 多恵子
(古家十軒・30区)

日々、忙しく過ごしていると余裕がなくなり、心も身体も疲れてしまい、自分一人で頑張っている気持ちになってしまふ。

そんなとき、娘の言葉に癒される。

先日、私の誕生日に娘からメールが届いた。

『いつも、ありがとう』

娘はささいなことでも、ありがとうと感謝の言葉を欠かさない。たったたひとりで優しいやんが伝わってくる。

年齢を重ねていくと、まわりの人との関わりがあたり前になってしまい、毎日、誰かと関わって生きているということをおぼえてしまう。感謝の気持ちを、言葉にして伝えることの大切さを娘に気付かされた。

私も、娘に見習って、たくさんの感謝の気持ちを伝えようと思う。

母が残した遺産



長谷川 憲彦
(鶯上・12区)

新春に母が逝きました。

母は金魚などの世話が好きでな人でした。しかし私は、母が池に覆いを掛けていたので金魚を見ることもなく、関心もありませんでした。

世話をするなら見えるほうがよいので、覆いを取り外しました。すると、池は一週間で藻とふんで汚れるのです。母が毎週掃除をしていた訳ですね。時間をかけ掃除をするたびに、金魚のかわいさを知り、母の苦労が身に染みました。

先日、夜間に多くの金魚が食べられてしまう事件が起きました。猫しが警戒していなかったのですが、犯人は池の脇にあった足跡からサギだと判明。その後ネットを掛けるようにしました。母の掛けていた覆いも必要だったのですね。

以前よりもきれいになっている池を見るにつけ、生前からやってあげればよかったと後悔の念が一杯です。母の遺産の金魚、天国から見えてくれるよね。

議会のうごき

5月

- 17日 邑楽郡町村議会議長会臨時会
- 19日 議会運営委員会
総務教育常任委員会
全員協議会
- 20日 第1回臨時会
- 25日～26日 群馬県町村議会議長会
臨時総会・議長研修会
- 30日～31日 全国町村議会議長会議長・
副議長研修会

6月

- 1日 議会運営委員会
- 2日 総務教育常任委員会
産業福祉常任委員会
- 3日 全員協議会
中央公民館建設特別委員会
学校給食問題調査特別委員会
- 13日～17日 第2回定例会
(本会議、議会運営委員会
各常任委員会、全員協議会
各特別委員会、広報委員会)
- 24日 大泉町外二町環境衛生施設組合議会
- 26日 邑楽消防団ポンプ操法競技大会
- 27日 邑楽館林地域市町村懇談会
- 28日 学校給食問題調査特別委員会視察調査
- 29日 邑楽館林医療事務組合議会
館林地域消防組合水防協議会
館林地域消防組合議会

7月

- 4日 広報委員会編集会議
- 6日 太田市外三町広域清掃組合議会
群馬東部水道企業団議会
- 10日 館林地域消防組合消防団ポンプ操法
競技大会
- 14日 広報委員会校正会議
- 15日 学校給食問題調査特別委員会視察調査
全員協議会
- 20日 中央公民館建設特別委員会
学校給食問題調査特別委員会
- 22日 産業福祉常任委員会町内行政視察調査
- 27日 東毛広域流域下水道（西邑楽処理区）
連絡協議会定例会
邑楽館林地域施策推進協議会

議会を傍聴しましょう

次回の定例会は
9月6日から16日を予定しています

(開会は原則、午前10時 一般質問は7日、8日を予定)

URL <http://www.town.ora.gunma.jp/chosei/gikai>
詳しくは、議会事務局まで 88-5511 (内線300)

島根県大田市

おおだ



大国 勝
(本郷江原・29区)

私の故郷は、島根県大田市。世界遺産『石見銀山』や、国定公園の『三瓶山』、鳴き砂で有名な『琴ヶ浜海水浴場』など、山や海に囲まれた自然豊かなところですよ。

大田市の人口は約3万5000人ですが、1平方キロメートルあたりの人口密度は80人ほど。邑楽町の人口密度が850人ですので、おおよそ10分の1以下の密度になります。私は、そんな超田舎で育ちました。

これは、小学4年生のときの思い出です。まだ肌寒い春先のことです。近くの漁港に行って、使わなくなった大きな発泡スチロールの箱をもらってきました。それを少し削って小舟を作り、3人で乗り込み、200メートル先の小島を目指し漕ぎ出しました。小島まであと少しの位置にきたところで、大きな波にのまれ転覆。洋服はずぶ濡れになり、このまま小島を目指すのは諦め、発泡スチロールの小舟をビート板の

ようにして、出発した海岸まで泳いで帰りました。邑楽町には海はありませんが、たくさん自然が残っています。田舎育ちの私は、その自然の中で、日々のびと充実した生活を送っております。



大田市の海



天気予報の前線の位置に一喜一憂するところです。九州地方では、地震で地盤が緩んでいるところにこの豪雨です。自然災害の恐ろしさをまざまざと感じ、被害を受けた皆さまに心からお見舞い申し上げます。

さて、邑楽町学校給食センターでは、子どもたちに安全安心な給食を提供しています。職員の努力や奮闘に敬意を表します。

議会では、さらなる改善策を求めため学校給食問題調査特別委員会を設置し、他市町村の給食センターや自校方式調理場の視察を行いました。足利市や板倉町の学校給食調理場では、設備やアレルギー食対応の様子を勉強してきました。

さらに、保護者との意見交換会などを計画し、より充実したおいしい給食が提供できるよう模索しております。

今後も、町民皆さまのご意見をいただきましたようお願い申し上げます。

(塩井記)